

日田高校定時制 学校だより ♪希望・理想・使命♪

明日はいよいよ予餞会！

予

餞会ってご存知でしょうか。卒業式以前の学年末近くの時期に、卒業を控えた生徒たちを送り出す目的で開催される学校行事です。行事の精選を進める中で、予餞会を実施しない学校が多くなっていますが、定時制では大切な学校行事として守り続けています。

ところで、予餞会の「予餞」ってどういう意味か、みなさん知っていますか。予(あらかじめ)め、餞(はなむけ)をする会。餞とは、旅立ちや門出を祝って、詩歌や贈り物をする事。それを卒業式の前にあらかじめ行うことから、予餞会と言うわけです。

思い思いの気持ちを込めて、卒業生への餞の準備をする在校生たち。どんな発表になるのか、明日が楽しみです。



卒

業生には勿論ですが、在校生にも聞いてほしい先生たちからのメッセージがありますので、ご紹介します。



お笑い芸人ゴルゴ松本さんの「命の授業」を知っていますか？

慰問した少年院での講演のことなのですが、漢字を抜粋して日本語に秘められたメッセージを読み解いている内容です。1年くらい前に見て、とてもいいなって思ったのでお知らせします。YouTubeにもあるので是非見て下さい。たくさんある中で一つのお話を紹介します。人間って生きていくと、いやなことやつらいことや苦しいことが起きてしまいます。そのとき「なぜ自分ばかり」と思ってしまうこともあるでしょう。しかし、ゴルゴ松本さんは人生で直面するさまざまな「難」について、「苦難・困難・災難」はネガティブな状況ではないと話していました。「苦難・困難・災難」には「難」という字があります。「難」を経験したことがない人は、「難の無い人生」＝「無難な人生」を送っており、「そんな無難な人生は楽しいのか？」と問いただしています。そして、逆に「難」が「有る」人についてこう述べています。むしろ「難」が「有る」人だからこそ、周囲に「有り難う(ありがとう)」と感謝する気持ちが養われるのではないだろうか…。

毎日頃から周囲に感謝できるというのは、人生で多くの困難を乗り越えてきた証なのかもしれません。「無難」な人生ではなく「有り難う」な人生も素敵であることを考えてみたらどうでしょうか？

私が最近読んだ本「カリスマ人気セラピスト しみずたいぎ」さんの「行き抜いて、息抜いて、生き抜いて。」(※SNSで40万人が泣いた珠玉の言葉集)の117あるメッセージの中の1つを紹介します。

その時にしか咲かない「花」があるように、
その時にしか生まれない「気持ち」がある。
その時にしか持てない「夢」がある。
その時にしかできない「経験」がある。
その時にしか現れない「人」がいる。
そして、



それを^の逃してはいけない「タイミング」がある。

みなさんにとって、このメッセージから何を思いますか？

Editor's Note 【編集後記】

～木は光を浴びて育つ。人は言葉を浴びて育つ～

定時制では、言葉のカレンダーを使って、生徒たちに言葉のシャワーを浴びさせている。「言葉は人をつくる」「言葉は言霊」「言葉は心の使い」「言葉は刃物」など、言葉に関する名言も多い。たかが言葉、されど言葉である。